

北海道地方の天然記念物

岡部 賢 二¹⁾

はじめに

北海道は面積から見れば、本州の34.3%に相当するが、天然記念物の指定件数で見ると比べようもなく少ない。その理由はともかく、地質学的題材の天然記念物で国の指定は5件、北海道の指定は12件である。これらの分布を便宜的に3地域に分けて、簡単にレビューして見よう。

北海道の天然記念物

1. 中央部地域

中頓別鍾乳洞

(枝幸郡中頓別町字旭台 道)

北海道で最初に発見された鍾乳洞で、新第三紀の貝殻化石を含む石灰岩中に存在する点に希少価値がある。全長80 m, 幅2~7 m, 高さ3~7 m。貝殻化石は大部分が破片状であるが、巻き貝は少く二枚貝が多い。

名寄高師小僧

(名寄市瑞穂有利里 国)

天塩川支流有利里川の沖積層中に産する。円管状(直径1~6 cm, 長さ不定)で、芯に植物根の抜け孔がある。殻部分は非常に低結晶度の針鉄鉱あるいは非晶質含水酸化鉄からなる。形・質とも良く、産出数は多い。

名寄鈴石

(名寄市緑が丘 国)

河成段丘の洪積層中に多産する。球~楕円球状で直径は3~6 cm, 時に10~15 cm。表面は赤茶~黄褐色で粗雑。軟弱地盤中の瘤塊あるいは結核体の一種で、石灰質を中心に褐鉄鉱質及び珪質の皮殻が形成した後、中心核が剝離もしくは溶出してできた小石が1~数個入っており、振ると音がする。このものは形が良い。

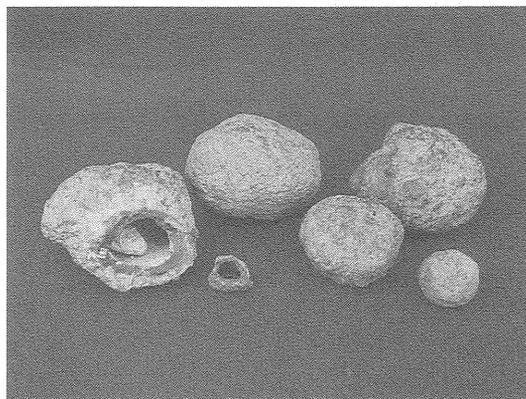


写真1 名寄鈴石。前列右から2個目のものの直径5 cm。
名寄博物館パンフレットより。

白滝の流紋岩球顆

(紋別郡白滝村 道)

湧別川支流流紋沢川最奥の山稜部に分布する黒曜岩の岩体下層部に大形の球顆が集積したものである。球顆はガラス中に長石(曹長石)と珪酸鉱物(鱗珪石)が放射状、同心円状に平均径5 cm, 最大15 cm 大に成長したもので、岩体の下部ほどその量が多い。このような大形のものが集積している例は珍しい。

当麻鍾乳洞

(上川郡当麻町開明 道)

中生層の凝灰質砂岩層中に挟まれた石灰岩中に形成された。全長135 m, 高さ8 m, 5つの空間に区切られ、狭い通路で連結している。管状の鍾乳石は直径5 cm, 長さ数~数十 cm で、表面が平滑で半透明な特徴がある。これは結晶度が高いためで、鍾乳石全体が単一の方解石結晶からなるものも多産する。

タキカワカイギウウの化石

(滝川市美術自然史館蔵 道)

昭和55年(1980年)滝川市の空知川河床の前期鮮

1) 地質調査所 北海道支所

新世滝川累層中から発見された大型の海牛のほぼ完全な全身骨格化石である。全長約7m。分類は、哺乳類、海牛目、ジュゴン科、ヒドロダマリス亜科、ヒドロダマリス スピッサスである。

この化石の発掘とその後の作業には、自治体教職員、道内の大学教官、博物館学芸員、院生、学生など多くの人達が参加した。

エゾミカサリュウ化石

(三笠市幸町三笠市公民館蔵 国)

昭和51年(1976年)三笠市幾春別川支流菊面沢(現在、塞き止め湖の桂沢湖に注ぐ)で発見された大型爬虫類の頭部の化石である。この化石が日本で初めて発見された陸棲の大型肉食爬虫類であるとのことで注目された。平成元年(1989年)3月に海トカゲリュウの一種(モササウルスの一種)であると訂正された。

夕張の石炭大露頭

(夕張市高松 道)

シホロカベツ川左岸で、明治21年(1888年)にライマンの弟子、坂 市太郎によって発見された24尺層の一部。炭層は古第三紀石狩層群夕張層下部で、6尺、8尺、10尺の3層からなり、北海道の石炭鉱業の嚆矢となった記念碑である。石炭博物館の施設の一部になっており、坑内施設見学の出口がこの露頭の真ん中になっている。

新冠泥火山

(新冠郡新冠町字高江 道)

新冠市街地の北方2kmに位置する。地域の地質は新第三紀中新世～鮮新世下部の堆積岩層からな

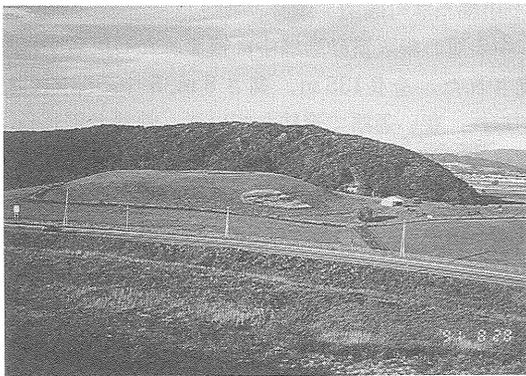


写真2 新冠泥火山第7丘。手前の牧草地の丘。頂上に湿地が見える。手前の道路は国道235号線。中川充氏撮影。

り、油徴、ガス徴が知られていた。昭和27年3月4日の十勝沖地震の際、北西方向の割れ目沿いに泥水やガスを噴出し、幅350m、延長1.1kmにわたって8個の泥丘が形成された。中で最大の第7丘は保存状況が良く、比高25m、長径230m、短径160mの台地状を呈し、頂部中心は径50×60m、深さ1.5mのカルデラ状凹地で湿原を形成している。日本ではここ以外に注目すべき泥丘、ガス丘が無い。

2. 西部地域

樽前山溶岩円頂丘

(苫小牧市樽前 道)

樽前山は最高点1023.8mの外輪山に囲まれた直径約1200mの火口原の中心に中央火口丘、そのまた火口の中に普通輝石紫蘇輝石安山岩の溶岩円頂丘を形成した三重式火山である。溶岩円頂丘は明治42年(1909年)4月17～19日の間に噴出生成した典型的なもので、世界的に有名になった。生成当時は底径450m、体積2000万m³の饅頭型であったが、

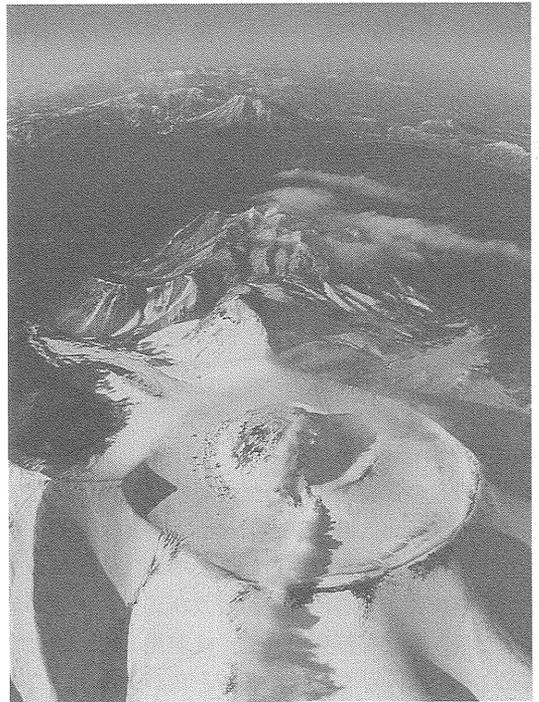


写真3 樽前山溶岩円頂丘。樽前山の向こうに支笏湖が見え、その対岸に活火山の恵庭岳が望める。北海道新聞社撮影。

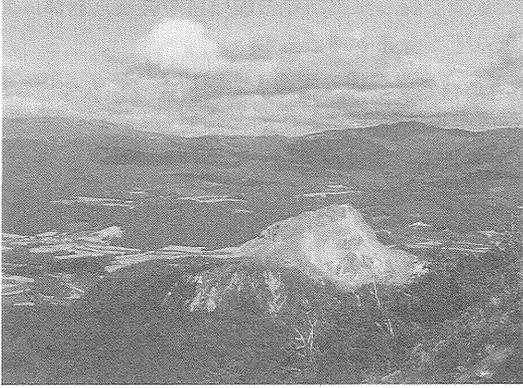


写真4 昭和新山。有珠山の展望台から昭和新山の全景を見ることができる。中川 充氏撮影。

後やや平坦になった。生成後に円頂丘を通るN60°EとN60°Wの2つの方向の割れ目を生じ、現在もその南麓部で噴煙をあげている。

昭和新山

(有珠郡壮瞥町字滝之町 国, 特別天然記念物)

活火山有珠岳(725 m)の東150 mの畑の中にできた寄生火山である。生成の活動は昭和18年(1933年)12月28日の有珠岳山麓一帯に起こった地震に始まる。地震は東麓へ漸次集中、地割れの生成、畑の隆起、隆起部の北への移動、翌19年6月23日からの爆発、火口の生成、屋根山の隆起、同年10月31日の爆発終了、溶岩丘の上昇の順序で進行し、20年9月末、最高点406.9 m、底径350 mの溶岩円頂丘の形成で終了した。この生成過程の進行記録はミマツダイヤグラムで有名である。

二股温泉の石灰華

(山越郡長万部町字大峰 道)

二股川上流に長さ約400 m、幅約200 m、厚さ最大25 m程の段丘状の形態を呈する温泉沈着物で、わが国最大級である。大部分は既に土壌や草木で覆われている。温泉は摂氏40~50度の食塩泉で、それから方解石や霏石が粗粒~土状で晶出する。晶出速度はかなり速く、約2週間で花瓶など作品素材の表面に付着晶出し、これを覆ってしまう。

乙部鮪ノ岬の安山岩柱状節理

(爾志郡乙部町花磯 道)

乙部町市街地から国道229号線を北へ12 km、国道から約450 m日本海へ突き出た岬の海崖に見られる新第三紀の普通輝石安山岩の柱状節理である。

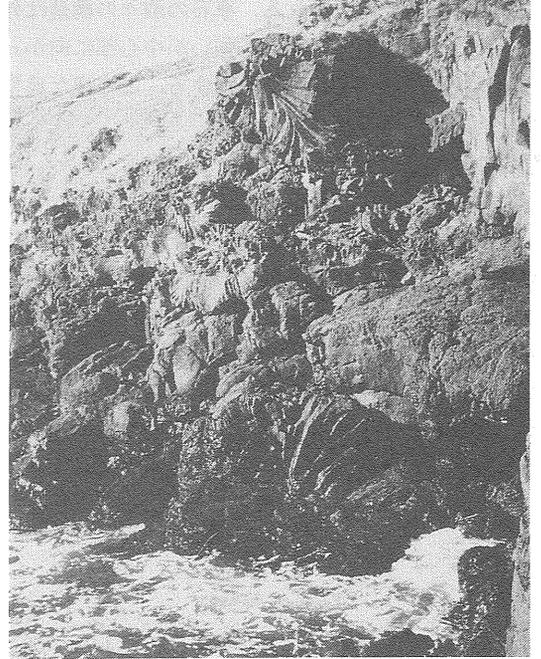


写真5 根室車石。海岸沿いの路頭で多様な車石構造を見ることができる。現地には遊歩道が敷設されている。池田国昭氏撮影。

崖の下半部は垂直に近い急傾斜で海面に達し、上半部は柱状節理の柱の断面が露出し、溶岩の複雑な動きを良く現している。

3. 東部地域

オシュンコシュン粗粒玄武岩柱状節理

(斜里郡斜里町遠音別 道)

斜里町ウトロ南西約5.5 kmの海岸に突出するオシュンコシュン岬に見られる柱状節理である。

付近には新第三紀中新世上部の頁岩層が分布し、これを貫く黒色堅硬緻密な粗粒玄武岩の岩床や岩脈が多い。柱状節理そのものは珍しい訳ではないが、特に、ここでは岩柱に直角にできた縞状風漣模様が奇観である。

根室車石

(根室市花咲 国)

根室半島花咲岬灯台付近の海岸に分布するアルカリに富む粗粒玄武岩で、中生層の根室層群堆積中~後に、侵入もしくは溢流したものである。特徴的な車石構造は直径1~2 m(最大のもので6 m)の円形又は楕円形で、車石と車石との間はガラス、時に細

おわりに

北海道の地質学的特徴は、東北日本弧と千島弧との衝突、その接合部の隆起に伴う地質現象と言える。これからすると、火山現象に関する天然記念物が多く、西部地域のものは全て、東部地域のものは十勝坊主を除く全てとなるのも頷けるが、中央部地域のもの無いことが奇異に感じられる。中央部地域に位置する火山である大雪山は特別天然記念物に指定されているが、地質現象は背景に隠れ、動植物の生態系が主対象になっている。また、これに連なる十勝岳連峰、より南方につながる日高山脈などには地質学的題材の天然記念物に値するものがある筈で、これからの調査・研究が待たれる。

また、北海道は大型の動物化石の宝庫で、貴重な試料（個体）の発見が相次いでおり、今後の大きな成果が期待できる。

もう一つ、地質と寒冷地気候との両者に関係したものに特徴がある。十勝坊主は当然として、名寄の高師小僧、鈴石も未だその成因は充分には解明されていないが、寒冷地気候に関係しているのではなからうかと思えるし、当麻の鍾乳石の結晶度の良さは、地下での現象とは言え、低温条件下でゆっくりと時間をかけて晶出したものではないかとも思えるからである。恐らく、地質学的な周氷河現象の化石は、日本では北海道が宝庫であり、貴重なものが数多くあるであろうが、これもこれからの問題である。

しかし、天然記念物などの保存・保護指定の問題となると、社会開発の問題とも密接に関係することが多いので、地域社会との共通の理解・協力なしには望ましい結果を期待できないことを忘れる訳にはいかない。

文 献

- 今西 茂(1956)：5万分の1地質図幅「名寄」および同説明書、北海道立地下資源調査所、45p。
 小山内 熙・松下勝秀・長尾捨一(1970)：5万分の1地質図幅「士別」および同説明書、北海道立地下資源調査所、27p。
 国府谷盛明・長谷川 潔・松井公平(1964)：5万分の1地質図幅「白滝」および同説明書、北海道開発庁、35p。
 鈴木 醇(1954)：北海道産枕状溶岩類(Pillow lavas)に就いて、北海道地質要報、No. 26, p. 11-20。
 土居繁雄(1957)：5万分の1地質図幅「樽前山」および同説明書、北海道開発庁、51p。
 二本木光利(1979)：わたくしとアンモナイト、芸術教室札幌学映、344p。
 野川 潔・小坂利幸・松井 愈・松沢逸己・木村方一(1978)：十勝平野における周氷河現象、地団研専報22「十勝平野」、p. 213-229。
 長谷川 功(1971)：鈴石などと言う石塊、北海道の文化、No. 20, p. 2-4。
 古沢 仁(1971)：タキカワカイギュウの研究、滝川市美術自然史館、81p。
 北海道教育委員会編(1978)：北海道の文化財、北海道教育委員会、302p。

OKABE Kenji (1992): Natural Monument in Hokkaido District.

〈受付：1992年1月30日〉

募 集

『私の推薦する天然記念物』

あなたの推薦する地質系天然記念物を、写真に簡単な解説を付けて本誌編集委員会までお寄せ下さい。応募資格は特になく、地質調査所の職員である必要もありません。気軽にご応募下さい。

〈原稿の書き方〉

写真：カビネ〜六切りサイズのプリント版（カラー可）1〜2枚。

図面：必要に応じて付ける。写真と合わせて2枚以内。

解説：1行23字で30〜60行程度。写真や図と合わせて1ページに収まるように。